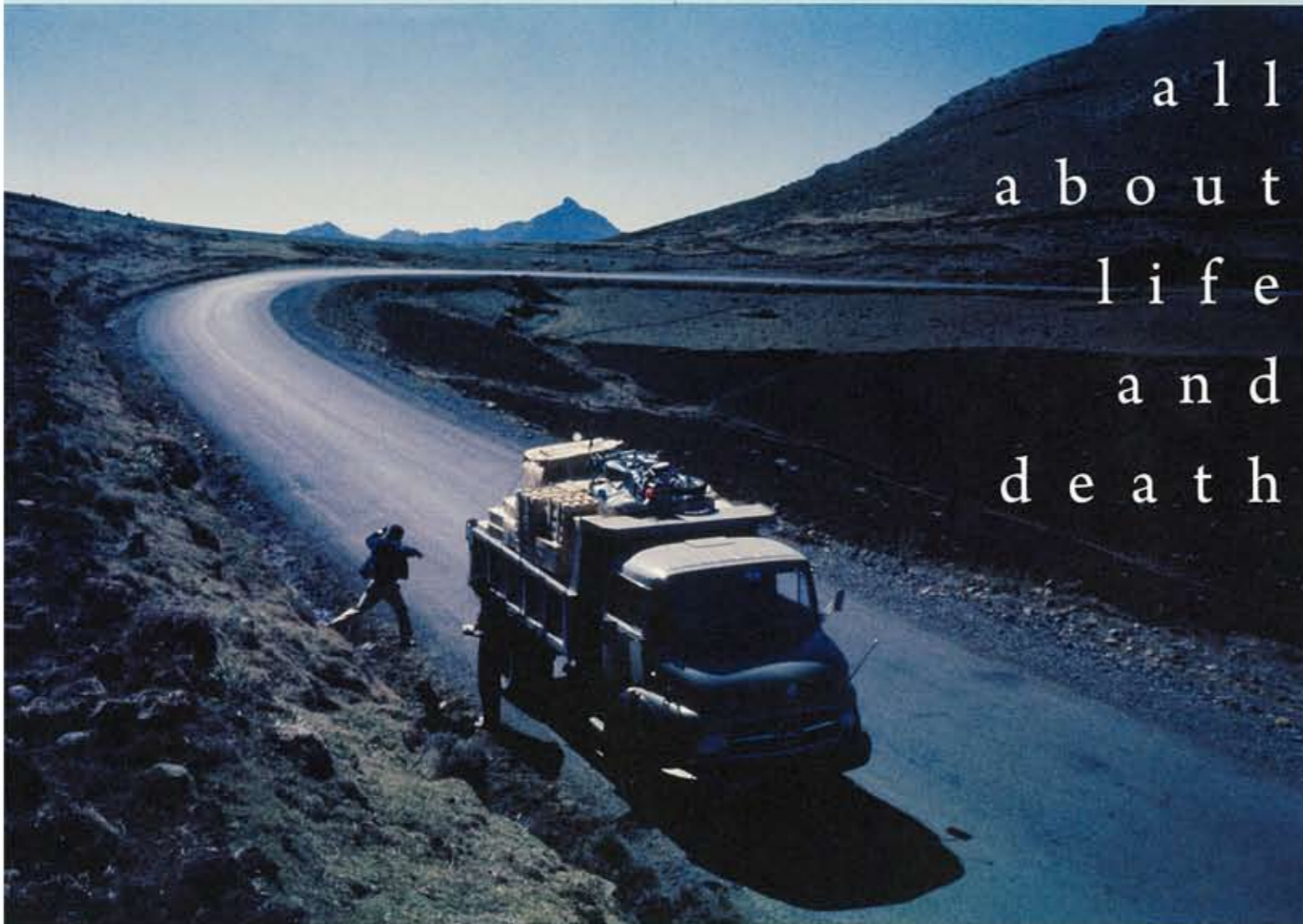


Photographs by AKIHIKO OKAMURA

岡村昭彦の写真

all
about
life
and
death



大干ばつによりエチオピアは飢饉にみまわれていた。救援物資を積んだローリー、1974年。

生きること
死ぬこと
のすべて

2014年7月19日(土)～9月23日(火・祝)

会場：東京都写真美術館 3階展示室 開館時間：10:00～18:00(木・金は21:00まで) 入館は閉館の30分前まで
休館日：毎週月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日は休館)
主催：東京都写真美術館 助成：公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団 協賛：凸版印刷株式会社 協力：岡村昭彦の会
観覧料：一般600(480)円、学生500(400)円、中学生・65歳以上400(320)円
※()は20名以上団体料金 ※東京都写真美術館友会の会員、小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

東京都写真美術館
東京都写真美術館 TEL.03-3280-0099 www.syabi.com



- ① ナイジェリア軍の機関銃に左腕を撃ち抜かれて倒れるビアアラ軍の兵士。ビアアラ戦争で、1969年。
- ② 公民権運動や宗教対立をめぐってデモや衝突が繰り返される北アイルランドでは、1969年から治安維持のためイギリス軍が投入された。ベルファストか、北アイルランド、1970年頃。
- ③ ヘルメットに花を飾っておどける南ベトナム政府軍兵士。南ベトナム、1964年頃。
- ④ 1962年4月に創設された鉄道員組合の建物。1962年は31年におたるトルビロ後継体制が終結した年だったが、その後選挙により選ばれたボッシュ大統領もクーデターで失脚して内乱となり、アメリカ海兵隊が投入された。ドミニカ共和国、1965年7月。
- ⑤ 全日空羽田沖墜落事故は、乗組員搭乗者133名が全員死亡する大惨事だった。犠牲者の遺体を収容するための棺桶が山積みになっている。東京、1966年2月。

岡村昭彦の写真 生きること死ぬことのすべて All about life and death—Photographs by AKIHIKO OKAMURA

岡村昭彦(1929～85年)は、1964年6月12日号の『ライフ』に9ページにわたり掲載されたベトナム戦争の写真によってフォトジャーナリストとして国際的にデビューを果たし、「キャバを継ぐ男」として一躍注目されました。65年には、フィン・タン・ファット南ベトナム解放民族戦線副議長(当時)との会見取材に成功しますが、そのために南ベトナム政府から5年間の入国禁止処分を受けてしまいます。ベトナムから切り離された岡村は、ドミニカ、ハワイ、タヒチなどを取材し、68年に家族とともにアイルランドに移り住みます。北アイルランド紛争を取材するためだけではなく、ベトナム戦争を核時代の実験戦争としたアイリッシュのJ.F.ケネディ大統領のルーツを追ってのことでした。そこを拠点に69年、日本人ジャーナリストとして最初にビアアラ戦争を取材します。また入国禁止処分が解けた71年には、徹底した取材制限が行われた南ベトナム政府軍によるラオス侵攻作戦の失敗の実態の取材に成功します。晩年はバイオエシックス(生命倫理)という言葉掲げてホスピスの問題に取り組みました。

岡村昭彦の軌跡は、われわれはどんな時代を生きているのかを鋭く問いかけます。それは「世界史」の中を日本人はいかに生きてゆくべきかを示しているといつてよいでしょう。

本展では、残された原板に遡って調査研究された成果をもとに、未発表の写真を中心に新たにプリントを作り展示構成します。そこにはこれまで言われてきた「フォトジャーナリスト」という言葉ではくくることのできない、岡村昭彦の思想と感情の軌跡が揺り起こされ、人間がカメラのレンズを通して、世界をどのように認識したかがあざやかに浮かび上がってくるでしょう。

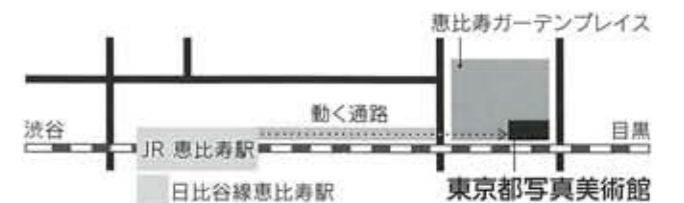
【関連イベント】

■シンポジウム

日時 2014年9月6日(土) 18:00～20:00
開場:17:45(予定)、整理番号順入場、自由席
モデレーター 生井英考(立教大学教授)
パネリスト 百々新(写真家)、小林美香(東京国立近代美術館客員研究員)、戸田昌子(武蔵野美術大学非常勤講師)
会場:1階ホール 定員:190名
*展覧会チケットの半券をお持ちの方、当日10時より1階受付で整理券を配布します。

■担当学芸員によるフロアレクチャー

毎月第2、4金曜日16:00～
*本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。



- JR恵比寿駅東口より徒歩約7分。東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。
- 当館には専用の駐車場はございません。お車のご来場は近隣の有料駐車場をご利用ください。
- *関連イベント等は予告なく変更される場合があります。最新情報はホームページをご覧ください。

東京都写真美術館
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
TEL.03-3280-0099 www.syabi.com